

参加
無料

カーボンニュートラルにおける 「原子力活用の方策」 討論会

2022年
1/24月
14:30~17:30

場所：
衆議院第一議員会館 大会議室

定員：150名 (先着順)

※この討論会の様子は、
後日YouTubeの『池之端未来チャンネル』にて
配信予定です。

目 的

一昨年10月、菅前総理はカーボンニュートラル達成に向け我が国の決意を宣言しました。それは、原子力活用の立ち位置を根底から再考させるものでした。カーボンニュートラルは、**18世紀の産業革命をはるかに凌駕する世紀の大変革**です。そして、欧州委員会の「原子力エネルギーがグリーンであることを結論付けるEUタクソノミー」の動向とも関連し、人類が原子力活用を選ぶか否か、の問いを浮き彫りしました。我が国が**この大変革に後れを取ると国力衰退の憂き目に遭う**のは必定です。

欧州のEUタクソノミーが、原子力エネルギーがグリーンであることを決断した背景には、**人類は原子力を選択する道を選ばざるを得ない**という洞察があります。我が国も、「**我が国には原子力を捨て去る余裕はもう存在しない**」という気持ちで、抜本的な原子力活用を再考する時が来ていると思われまます。

この時、原子力の完結性を図るため、懸案事項になっている未解決の最終処分場や高速炉開発、あるいはSMRの開発などの諸問題に取り組み、解決のための方策について検討を進めていく必要があります。また再稼働の促進や国民の原子力アレルギーをどう克服するかも、この際解くべき重要課題になります。一方で、欧州などと異なった地理的・気候的制約条件により、我が国の再エネには限界が存在するのも事実です。このような現実を踏まえれば、原子力活用で問題解決を図る以外の良策はないことを確認する時が来ているように思えます。

このような世界的動向と平仄を合わせ、「**国の繁栄、カーボンニュートラルの成功、そのための原子力活用**」という三段論法的認識に基づき、国会議員、地方自治体関係者などが一堂に会し、カーボンニュートラルの達成に向け、今後のアクションプランについて検討が望まれています。この「中規模全国大会」はその場を提供するものです。

1) 挨拶：高市早苗(自由民主党 政調会長)
(10分)

2) 基調講演：豊田正和(日本エネルギー経済研究所 前理事長)
(40分) —カーボンニュートラルの目標達成のための
原子力に課される論点の提起—

3) パネル討論 (1時間半～2時間)

i) テーマ：カーボンニュートラルにおける原子力活用の方策

ii) ファシリテータ：遠藤典子(慶應義塾大学)

iii) パネリスト

国会議員 稲田朋美(原子力リプレース推進議連会長)、鈴木淳司(原子力規制特別委員長)、
石川昭政(経済産業部会長)

学識経験者・
立地地域首長 有馬純(東京大学)、野瀬豊(高浜町長)、品田宏夫(刈羽村長)

iv) 討論会の進め方

基調講演で提起される以下の3テーマについて討論

テーマ
1

原子力の
国民理解

電気料金の抑制、
エネルギーの安定供給、
カーボンニュートラルの達成など

テーマ
2

原子力技術の
課題

再処理、最終処分場、
高速炉の立ち上げ、
SMRなど

テーマ
3

原子力行政の
近代化

規制委員会設置法の改定、
再稼働促進、
運転期間延長、裁判など

前半(60分)で

立地地域首長等が各テーマを分担してそれぞれ15分程度話
題提供を行う。その後、国会議員から各テーマに対して意見を
述べて貰う。

後半(50分)で

ファシリテータの誘導で、各テーマについてパネリストが意見
交換や議論を行う。

v) まとめ

最後の10分程度で、ファシリテータが議論を整理して、討論会のまとめを行う。
(要検討：まとめた成果を「提言書」として、後日、政府に提出する)

主催：一般社団法人 原子力国民会議

後援：エネルギーと経済・環境を考える会、核兵器廃絶・平和建設国民会議(KAKKIN)、青森地域エネルギー施設
立地商工団体協議会、エネルギー問題に発言する会、日本原子力学会シニアネットワーク連絡会、福井県
原子力平和利用協議会

参加には事前の お申し込みが必要です

参加申込みがないと、
この討論会に参加できません。

右の参加申込書にご記入の上、
下記FAX番号またはメールアドレスへ
お送りください。

F A X : **03-5814-6705**
E-mail : nnc@kokumin.org

参加申込書

ご住所 〒		お名前(※必須) ふりがな
電話番号		メールアドレス(※必須)
		携帯電話番号

※1月21日(金)までに、入場チケットをご登録のメールアドレスに送信いたします。